

# 組合だより

第 1 2 1 号  
1 月 2 2 日  
2 0 0 9 年

発行所 岡山大学職員組合  
〒700-8530 岡山市津島中 2-1-1  
電 話 086-252-1111(代)  
(内線) 7168  
直通・F A X 086-252-4148

岡山大学職員組合 <http://hb4.seikyoku.ne.jp/home/ODUnion/> メールアドレス [ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp](mailto:ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp)

## あけましておめでとうございます 2009年

世界大金融危機とともに暮れ、派遣村のお正月とともに始まった2009年です。  
今年も、私たちは、大学に働く人びとの勤労条件の改善をはじめとして、良き大学づくりのために全力をあげるつもりです。今年もよろしくお願いいたします。



### 組合員を募集しています

～くみあいでみつけるあしたのいきがい～

新しい大学作りに、あなたも参加しませんか。一人でも多くの声を、岡山大学作りに結集したいのです。私たちはあなたの参加を期待しています。



## 早田幸政氏講演「法人化後の国立大学と大学評価」(2008/10/18)報告

村上賢治



法人化後、地方大学をとりまく状況は年々厳しくなっており、岡山大学においても、大学運営についての新しい展開を迫られている状況にあります。この講演会では、大学評価や認証評価にたずさわっておられる早田幸政氏(大阪大学 教育実践センター)をお招きし、法人化後の国立大学と大学評価問題について話していただきました。

国内外を取り巻く社会経済情勢や、国の「行財政改革」は、不安定で先の見えない状況にあります。その中で、大学改革、とりわけ国立大学をターゲットした「改革」の行方は、やはり先行きの見えない状況に陥りつつあります。こうした中、各国立大学は、次期中期目標・中期計画の策定に向けた準備作業に忙殺されています。

法人化後、「大学の努力と成果」に応じ国の予算を配分するルールを確立すること、大学評価を通じて国立大学法人の機能・分野に応じた再編・集約化を行い、国費による助成の「選択と集中」の徹底化を図るべきことが、政府より明確に打ち出されています。さらに、評価についても、国立大学法人評価の「業務実績評価」では、機関別評価に加え、学部・研究科毎の水準・達成度の相対評価が明確になるよう厳格に実施すべきことが提言されています。将来、これらの差別化が進んでいけば、「生き残った」大学、学部・研究科は、研究、高度職業人養成、教養教育、地域貢献へと、機能別分化していくことになる予想されます。

そのような中で、「留学生30万人計画」と大学の国際化がいっそう強く打ち出されてきています。今後、大学の国際的競争力向上、世界規模での大学評価への多くの施策がとられることになるでしょう。



一方、大学教育の無償化を目指すことや、若手研究者の身分を安定させて育成を図るといった視点は、政府の方針の中にはみられない状況です。

教育や人材育成は国家百年の計とありますが、日本の大学が現在向かっている方向が、将来に向けて本当に最善かどうか、大学で働く私たちとして、さらに深く考える必要があると感じました。



## 無料無料法律相談 『ユニオン』を

## ご利用ください

セクハラ、アカハラなどの労働環境問題、あるいは個人的な問題でも結構です。内定取り消しの相談にも応じています。プライバシーを厳守するために、組合執行部とは別組織である人権部が相談を受け付けています。法的な相談をしたい方のために顧問弁護士を置き、希望者には、最初の弁護士相談を無料で受けられる「ユニオン」を設けています。

法律相談は、随時、弁護士事務所で行います。相談を希望される方は、人権部までお申し込みください。

連絡先: 下野克巳 経済学部教授 内線 7536  
竹内真理 法学部准教授 内線 7472  
中富公一 法学部教授 内線 7510

## 組合だよりの原稿を募集しています

岡山で見に行き、手に取ることのできるもので、大学人らしい(職員の方からの投稿も歓迎)

情報提供には謝礼を払い、組合誌に掲載していきたく考えています。書評、映画鑑賞、展覧会鑑賞、紀行文(写真等もお付け下さい)などをお待ちしています。さらに大学のあり方についての投稿も歓迎いたします。採用されたものには、1面1200字程度で図書カード5,000円をめどに謝礼を差し上げます。



## 一般公開国際シンポジウム

### 「日独文化交流史上の在日ド

### イツ兵捕虜と

### その収容所」 - 開催報告 -

高橋輝和(社会文化科学研究科)

昨年の10月13日に、岡山大学で36年ぶりに催された日本独文学会の秋季研究発表会に合わせて開かれた標記の一般公開国際シンポジウムは大盛況でした。ここにその趣旨と報告の一端をお伝えします。

2005年と2006年には「日本におけるドイツ年」として日本各地で多彩な企画が実施されました。その中で特に一般人のみならず、専門家の注目を浴びたのは、2005年にドイツ東洋文化研究協会(OAG)が東京のドイツ文化会館で開催した企画展「日本におけるドイツ人捕虜1914年-1920年」と2006年に各地の映画館で上映された東映系の「バルトの楽園(がくえん)」でした。これらの催し物によって、第1次世界大戦時の日本の各地(東京、習志野、静岡、名古屋、大阪、姫路、青野原〔兵庫県〕、似島〔広島県〕、松山、丸亀、徳島、板東〔徳島県〕、福岡、久留米、熊本、大分)に約4,400名ものドイツ兵(これに300名ほどのオーストリア・ハンガリー兵が加わる)が捕虜として収容されていたという歴史的な事実そのものが広く再認識されることになったのは幸いでしたが、在日ドイツ兵捕虜とその収容所の世界史的な意味、とりわけ日独文化交流史上の重要性は、一般人はもとより専門家にも未だに十分理解されているとは言い難い状況です。

本シンポジウムの発表者達がこれまで個別に行ってきた研究の成果を総合すると、ドイツ兵捕虜の先進的な技術を利用したいと考えた日本側の期待によく応えて、彼らが行った所外労働や技術指導と製作品展覧会が当時はまだ発展途上国であった日本の農業、牧畜業、手工業、機械工業やスポーツ、音楽の振興に大いに貢献し、さらには終戦・解放後も多くの元捕虜が日本に残って産業界や教育界において活躍した結果として、ドイツの文化と技術に対する一般日本人の肯定的な観念がこの時代に一挙に固まり、日本全国に広まって行ったと考えられます。

その際にドイツ兵捕虜の動向を頻繁に報道した、当時の最も身近なマスメディアとしての新聞が果たした役割にも大きなものがあつたに違いありません。

他方、多くのドイツ兵捕虜あるいは元捕虜によって日本の文化や歴史の理解と紹介も熱心になされて、その後の今日まで続くドイツ人の日本観の形成に大いに

寄与したと思われます。

本シンポジウムでは各収容所の研究者が一堂に会して、各収容所やドイツ兵捕虜個人の日独文化交流に関わる活動とその日独双方での反響や評価を総合的に検証しました。

シンポジウムは2部から構成されていて、午前の第1部は日本独文学会主催で「中国四国内の収容所を中心に」報告・討論され、午後の第2部は岡山大学大学院社会文化科学研究科主催で「中国四国外の収容所を中心に」報告・討論されました。

在日ドイツ兵捕虜収容所の一つとして、一般にはさほど知られていない香川県の丸亀俘虜収容所を以下に紹介します。

丸亀俘虜収容所は1914年11月11日に開設され、11月16日に324名のドイツ兵捕虜を収容しました。この収容所は2か所に分かれていて、下士官70名と兵卒243名は、丸亀市に隣接していた当時の六郷村内の西本願寺・塩屋別院に収容され、将校7名は従卒4名と共に丸亀市内の赤十字看護婦養成所跡の施設に収容されました。1916年10月に将校全員が大分に移され、その代わりに「特殊俘虜」と呼ばれていたポーランド人やロシア人、イタリア人捕虜ら17名が大阪や青野原、久留米から移送されて来ました。収容期間中に1名の病没者が出ていますが、1917年4月に333名の捕虜が新設された板東俘虜収容所に移送された後に、丸亀俘虜収容所は閉鎖されました。

初代収容所長の石井弥四郎中佐は捕虜に理解のある人物だったらしく、捕虜との関係も友好的で、病気による退任の際には捕虜の将校や下士官達と一緒に撮った記念写真が残されています。収容所の管理部のみならず、周辺の住民も捕虜に対して非常に好意的・同情的でした。捕虜が到着した当日は収容所に通じる道路のあちこちに「心より大いに同情して歓迎します」とドイツ語で書かれた標識が掲げられていて、捕虜を感激させたと言われています。

丸亀収容所の管理部は捕虜の所外労働の推進に非常に積極的であり、香川県庁や高松市役所・丸亀市役所等に働きかけをしたり、新聞紙上で呼びかけをしたりしています。その結果として、1917年の1月初めから3月末まで製図と指し物を専門とする二人の捕虜が高松市内の香川県立工芸学校(現在の香川県立高松工芸高等学校)に監視兵つきで通勤して、家具見本の製作と指導を行いました。その様子を二日にわたって詳細に報じた香川新報(現在の四国新聞)の記者は次のように賛嘆しています。

彼等の職業振り其の他に就て聞けば、我邦人に比し規律の正しきは感心すべきものにて、現在彼等は敵国人なりといへども、邦人の学ぶべきものなりとは校長の談なり。

彼等の行ふ処はすべて耳目の仕事、机上の理論仕事にあらずして、万事、実社会求望の実物を調整する点なり。

我国の如く廉価品といへば不親切なる製作を為し、将来の事を毫も省みざるが如き思慮なき事は為さず、飽くまで親切なる製作を為し、永久に購買の信用を得んとする彼(か)の国風も邦人の学ぶべき点なるが、...素人観を以てするも、彼が製作振りと我国当業者の製作振りとの巧拙は識別するに難からざるなり。

1916年11月には香川県庁から助成金を得て、鞆革(なめしがわ)の試作に3名の捕虜が取り組み、「成功したら日本製革界の革命」と期待されましたが、この試作は材料と薬品が不良であったため不成功に終わりました。期間中には多くの日本人が視察・見学に訪れています。

1917年3月に塩屋収容所近くの寺で開催された「俘虜製作品展覧会」では55点の作品が出品されています。それは次のようなものでした。

安楽椅子、書棚、縫物台、喫煙机、煙草盆、時計、人員検査図、肖像画、居室図案、庭園設計図、編上靴、鉄砧(かなとこ)、独仏戦死者の墓、独露戦死者の墓、貴族的邸宅、軍艦、牛の鞆具(ひきぐ)、菓子、灰皿、陰影画、カイザーの肖像、枕、各種腸詰、鯛の酢漬、装飾コップ、酒杯、装飾用壁掛、時計掛、鏡台、額縁、インキ台、製本見本の紙挟、剥製、小亭(=小さな東屋)、運動用器具、回転箱、風車、マンドリン、ラウテ、チッター、チェペリン飛行機、複葉飛行機、エーアーゲー複葉飛行機、青島堡壘模型、炭鋸模型、大砲、色写真、素焼、ハンモック、庭の模型

ドイツ兵捕虜が製作したこれらの物については「不十分なる上、道具も内地物にて製作上困難を極めたらしくも、緻密なる脳裡より出でたる製作には参考となる品多し」と報道されています。この展覧会には二日間で当時の丸亀市の人口をはるかに上回る3万人もの観覧客が訪れて、9割方は売約済みとなりました。この展覧会の盛況ぶりは次のように報じられています。

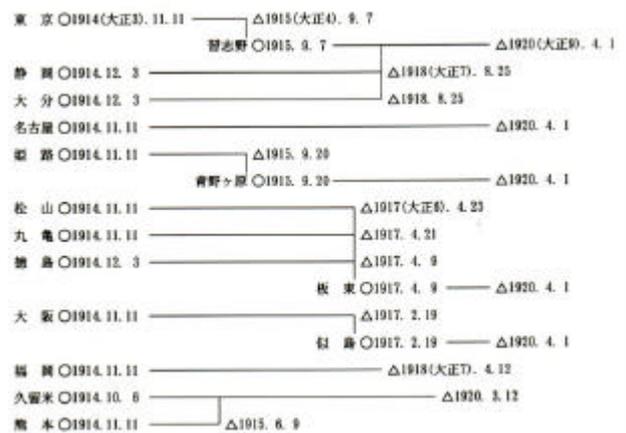
両日共、観覧者多く、午前9時より開場の所、7時頃より学生・青年会員等多く、一般公衆は正午頃よりヤット観覧せし程にて、中には入場するを得ず、帰るあり。

ある捕虜の手記によれば、この時の経験が、1年後の1918年3月に板東収容所で開催された大規模な「俘虜製作品展覧会」を組織するのに役立ったとのこと。そして丸亀と板東での大成功を受けてその後、久留米や青野原、広島(似島)、名古屋で開かれる「俘虜製作品展覧会」も各地の日本人に好評を博することとなります。他の展覧会の入場者数は次のようでした。

- 板東収容所(1918年3月8日-19日): 44,431名
- 久留米収容所(1918年11月29日-12月5日): 1,681名(一般大衆入場不可)
- 青野原収容所(1918年12月15日-20日): 約15,000名
- 似島収容所(1919年3月4日-13日): 163,447名
- 名古屋収容所(1919年6月22日-30日): 約103,000名

これら6か所の入場者総数は約358,000人になります。1920年の第1回国勢調査によれば日本の総人口は5,596万人で、現在の半分以下でしたから、当時ドイツ人とその技術を直接目にすることが出来た日本人の358,000人という数字は現在よりもはるかに大きな意味を持っていたに違いありません。

ドイツ兵捕虜収容所開閉一覽表



印は開所、 印は閉所の日付を示す。

『どこにいようと、そこがドイツだ - 板東俘虜収容所入門』鳴門市ドイツ館

## 全大教労働セミナー報告

笹倉万里子



2008年11月1日、2日に熱海で行われた全大教労働セミナーに参加しました。私は全大教の催しに参加するのは初めて、熱海も初めてだったので、新幹線を降りるなり、はあ、これが有名な熱海なるものなのか、ときよるときよろしておりました。熱海の駅前が思ったよりこじんまりとしていることにまず驚きました。そして、その決して広いとは言えない駅前にうずまく人々の多さに驚きました。さらに、会場であるホテルに向かう道の狭さと坂道の急峻さに驚きました。なんと申しましょうか、都会の中に意図的に残された田舎といった感じでした。

それはさておき、今回の労働セミナーは4つの講義からなっていました。

- 第一講 「大学法人等をめぐる動向と課題 - 法人化の中間総括 - 」
- 第二講 「大学法人等の財政・財務の基礎知識と実用編」
- 第三講 「過半数組合をめざして - 組合員拡大の進め方 - 」
- 第四講 「労働法規の実用編」



第一講では、日頃みなさんが感じていること、すなわち、お金がない、経営がぱっとしない、日々教職員への負担が増えている、ということを利用して整理していただきました。

第二講は、大学の財務状態を知るための基礎知識ということで平易な説明がありました。運営交付金が削減されつづけている現在、多くの大学が会計上は黒字を報告しています。どんな事情で黒字となっているのか、それぞれの大学が出している財務報告書を見ればある程度わかる、という話でした。しかし、細かいところは財務報告書に記載されていない

ことも多いというお話もありました。大学の財政事情の本当のことをわかっている人はもしかしたら誰もいないのかもしれない、というお言葉には本当に恐ろしくなりました。正しい現状認識が何より重要なのではないのでしょうか。

第三講は、組合員拡大をがんばろう!という話でした。組合が力を持つためには組合員拡大が重要なのは、重々わかっておりますが、組合員になるメリットに即時性がない状態では組合員拡大はなかなか難しいのではないかと思います。

私は労働法についてまったくといっていいほど知らなかったので、第四講はとても勉強になりました。組合と使用者の間には労働協約を結ぶのが本来のすじであること、就業規則は労働者の意見さえ聞けば内容は使用者が一方的に決めることができること、労基法の休日は週一日だけで、現在の週休二日のうち、土曜日は就業規則上の休日であることなど、一労働者としてこんなことも知らなかったのか、と目から鱗状態でした。

セミナーでは、他大学の方ともたくさんお知り合いになることもでき、とても有意義だったと思います。

### 座標軸

2009年の年明けは、職を失い、住居を失った人たちの飢寒とともに始まった。派遣村から発せられる悲痛な叫びは、私たちの心をどこまでも悲しませるそれにつけても、企業がため込んだ内部留保金の増額ぶりに驚いた人も少なくないだろう。派遣社員の増大と比例して、その金額も右肩上がりに伸びているワークシェアリングといった声も上がっているが、その前に、この内部留保金を使えばすぐに派遣切りを避けることができるという考えに、共感した人も多いと思う。内部留保金の増大と並んで、私たちの目を惹くのは、配当金の増額である。派遣止めの件もこの配当金と直接関連がある。景気の後退局面においては、労働者を減らして生産調整をすると市場は直ちに株価上昇をもって反応する。投資家や大企業の論理だけに依拠する市場原理主義に立つかぎり、派遣法の廃止どころか、派遣切りという事態そのものは拡大するほかない。一時的な雇用政策や住居確保も、むろん必要ではあるけれど、それだけではなんら問題の解決にはならない。システムのchangeが必要である。この機会に、非営利協同原則を組み込んだ第3セクター論なども検討されるべき時期だと思う。(い)

## 国会要請行動



2008年12月2日、参議院議員会館にて開催された、「国立大学・高専・大学共同利用機関運営費交付金3%削減に反対し、高等教育予算の充実を求め

る全国集会」に参加しました。

参加者は130人。会場には、続々と全国からの参加者が集まり、開始前にグループ内で資料を確認しながら要請行動の打ち合わせを行うという手際の良さでした。情勢報告、行動提起の後、4～5人の班に分かれ、事前に予約がとれた国会議員をはじめ衆参文教委員等に国会要請を行いました。

私の班では、民主党の鉢呂吉雄議員に、全大教の藤田氏、福井大の町原氏、東大の清水氏が、運営費交付金削減により研究教育への影響が出ていることなど詳細な説明をされました。鉢呂議員は資料を見ながら熱心に聞かれ、質問も出るなど予定の時間を10分もオーバーするほどでした。

その後の報告集会では、来賓の社民党党首の福島氏はじめ民主党議員6人より「党として高等教育費拡充の方針である。しっかりやっていきたい。」「早急に対応を検討したい。」との力強い言葉と、財務省、文部科学省交渉の報告に、熱気に包まれました。「各単組で地元選出国會議員、県知事、市長、議会等、署名の取り組みを頑張りましょう」とエールの交換をし、帰途に着きました。

福井大学の町原氏の、福井大で9月に開催された全学説明会の資料を持参し説明をされたことは大変アピールになること、「3人で参加すれば良かった」と言われたことも、大変刺激になり勉強になりました。自分の大学の状況を把握し、資料持参で参加すると良いと思いました。(書記、岡本)



## 単組だより～農学部より～

今年も農学部単組恒例のいもほりが、10月18日の土曜日に行われました。天高く秋晴れの空のもと55名が参加者下さり、フィールドサイエンスセンターほ場の160株に挑みました。夏の猛暑がお芋には



良かったのか、どの株も大物が鈴なりで、陽気とも相まって、皆様額に汗ながらの奮闘となりました。例年堀足りないということで株の追加注文も頂く

ところなのですが、今年はむしろ予約していた株を減らす方もいらっしゃるほどの出来映えでした。両手いっぱいお芋を抱えて、皆様無事お帰りになったでしょうか？収穫後には冷たいお飲み物やお菓子を準備して疲れた体を癒して頂きました。また、昨年好評頂いた各家族への洗剤1箱サービスも実施、泥汚れを落として頂けたことと思います。今年は午後の暑さを懸念して午前中に開催しましたが、例年に比べて参加者がやや少ない結果となりました。もしご希望の時間帯が御座いましたら、来年度開催の参考とさせていただきますので是非お知らせ下さい。来年もたくさんの株を準備してお待ちしていますので、ご期待ご来場下さい。

### 編集後記

全大教の運動などもあり、国立大学・高専・大学共同利用機関運営費交付金3%削減が撤回されました。全大教の国会要請行動には、岡大職組から岡本さんに行って貰っていますので、その様子については岡本さんのレポートをご覧ください。撤回の朗報にはホッとすると同時に、今日の厳しい状況を考えると身の引き締まる思いです。大学の公共的役割を果たしていくことで、国民の期待に応えなければと思います。その中で組合の役割はまだまだ沢山ありそうです。本年も宜しくお願いします。

### さんばみち

いつからか、お正月を奥道後で過ごす習慣が出来ていた。高い天井で蔽われ四方を囲われた広大な敷地の中に木々が生い茂り、ここ彼処に多数の湯船が配置されている。「ジャングル風呂」である。それが気に入ったせいでリピーターになっていた。むろん食事も悪くない。一番の魅力は、低めに設定された料金である。

岡山から奥道後まで、ルートにもよるけれども、旅心をそそのかすスポットが点在すること、むろん大きな魅力である。琴平、善通寺、琴弾宮、雲辺寺、石鎚山などと、松山道沿いだけでも、数え上げればきりがない。

徳島道の鳴門、ドイツ館、高知道の室戸足摺をはじめとして名だたる観光名所もいっぱいある。それに私たちは、八八箇所巡りを、四四箇所ですトップしてしまっただけという前科(?)もある。四国は、私たちお気に入りの旅の目的地なのだ。

奥道後に泊まるのは、もう何回になるのだろう。夕食を食べている写真がある。ホテルの食事風景を、専属のカメラマンが撮ってくれた写真である。数えてみると、2005年の日付に始まって、すでに4枚になっていた。

そうなると今度は、この写真を増やしたくなるから不思議である。ということ、今年も奥道後で正月を過ごすことになった。温泉から上がって食事をしていくところへ、カメラマンがやってきた。彼女は、私たちを覚えていて、よく来てくれましたねと嬉しそうだった。

初春の湯上がりを撮る老夫婦 (い)